

国際交流学科 3年

留学先：韓国

梨花女子大学

留学期間：2022年2月～2022年12月

韓国留学中は大学の授業に積極的に取り組むことは当然のことであり、その他の部分で、私は特に友好関係を広げて長い付き合いになる友人作りに積極的に取り組んだ。理由としては、友好関係が無いと会話できる相手がおらず、話す能力の向上ができないからだ。韓国に友人がほぼゼロに近い状態で留学をスタートさせた私にとって、友人作りは大きな課題であった。

具体的に友達を作るために行ったことの一つ目は、かねてから連絡をとっていた人たちと実際に会ってみることだ。会ってみると初めて会ったのに初めてではないと感じるくらい意気投合する人もいれば、当然少し自分とは合わない人もいた。韓国は宗教勧誘の詐欺が多く、誰かの紹介で会うわけではないため、その人が本当に私と仲良くしたいと思って連絡を取り、会う約束をしたかどうか分からないという危険性はあるが、会う場所や時間帯に気を付けて、万が一を考えられるようであれば、幅広い友好関係をつくるのにとってもいい方法であった。二つ目は、日本語スタディに参加したことだ。一つ目の行動が繋がっており、連絡をとって実際に会い友人になった人の紹介で参加することになり、お互い言語を学ぶ立場であり、間違えたり言葉が詰まったりすることに対して不安に感じず、また間違った部分を直すことも躊躇せずに行える仲だったため、韓国語能力の向上に大きく貢献した。また大学生という共通点もあるため、学校での悩み事も相談できるため心強かった。三つ目は、国際交流会に参加したことだ。これも同じく一つ目の行動に繋がっており、新しく出来た友人が国際交流会を企画していたため、後日参加し、私に合っていた雰囲気であったため、定期的に参加するようになった。国籍としては中華圏3割・英語圏3割・韓国3割・日本1割といった程度で、共通語は韓国語である。韓国に来た理由や目標が様々であり、人生の多様性を知った場所でもある。すでに韓国で働いている人から就職について聞くこともでき、気軽に楽しい雰囲気でありながらも真剣な話は真剣に答えてくれる人が多かったので、参加してよかったと感じており、今後も機会があれば顔を出したいと考えている。

1~3の行動は、留学をしなかったらできない事であり、そこで得た人間関係や人脈は私の宝物である。帰国が近くなると、友人たちから手紙やメッセージをもらったり、帰国する前に会いたいという声が想像以上に多くて感動した。距離は離れてしまったが、積極的に連絡を取ってずっとこの関係を崩さずに続けていきたいと思う。